

南方系の蛾 2 種, シロテンアカマダラヒメハマキとハラゲエダシャクの上郡町からの記録

大貝秀雄

シロテンアカマダラヒメハマキ

Gatesclarkeana idia Diakonoff, 1973

上郡町八保丙; 1 ♀, 10. X. 2024 (図 1).

国内では四国, 九州, 屋久島, 奄美大島, 沖縄本島, 石垣島, 西表島に, また台湾, 中国, 東南アジア, マルク諸島に分布するとされ, 亜熱帯から熱帯に適応した種であると思われる. Web 情報等によれば, この種は近年になって本州の各地で急速に分布を拡大しつつあることが知られる. 例えば 2006 年に岐阜県山県市で (岐阜聖徳学園大学・川上研究室, 2025), 2019 年に大阪府大東市で撮影されており (pearl, 2025), 愛知県では既に優占種となっているといわれ (みんなで作る日本産蛾類図鑑; 新蛾像掲示板, 2025), 関東地方にまで分布を広げている (斉藤, 2021; 田中ほか, 2021). 兵庫県においても既に相生市からの報告があり (高橋, 2023; 宇野ら, 2024), このたび上郡町でも確認された.

本種は今後ますます広汎にみられる種になるものと思われる.

ハラゲエダシャク

Diplurodes vestita fuscovestita Inoue, 1976

上郡町八保丙; 1 ♀, 7.VIII.2024 (図 2).

岸田 (2011) によれば国内では四国 (高知県), 九州, 屋久島の記録があるとされる.

名義タイプ亜種はベトナム, タイ, マレー半島, ネパール, インド北部に分布し, 日本と台湾のものは亜種 *fuscovestita* とされている. *fuscovestita* は名義タイプ亜種に比べ, 内横線と外横線の間が濃色となり, 後翅の中横線が後方で強いなどの特徴で区別された (Inoue, 1976). 今回上郡町で得た個体を, 図鑑で見ることでできる屋久島産の標本と比べると中横線は同程度に後方で強いが前後翅の中央部が明らかに淡色であり, 印象が異なっている. しかし上郡産と同様の特徴をもつと思われる個体は九州本土部でも多く見られるという (岸田, 2011).

本種の分布域として岸田 (2011) は本州をあげていないが, 千葉県では 1998 年以前の採集例があり, 千葉市内と梅ヶ瀬溪谷の少なくとも 2 地点で記録されている (岩阪, 1999). 兵庫県でも 2001 年に神戸市の諏訪山公園で得られており (山口, 2003), また上郡町に隣接する相生市でも 2022 年から確認されている (高橋, 2023).

このように本種が近年になって本州から記録されはじめたことは, 南方系種の北上の結果かとも考えられるが, 上記シロテンアカマダラヒメハマキをはじめとする



図 1: シロテンアカマダラヒメハマキ♀, 公衆トイレの外壁に静止.



図 2: ハラゲエダシャク♀.

他の北上傾向が強い種でみられるような爆発的な分布拡大は今のところ認められていないので, 古くから本州の低山地で局地的に土着していた可能性も否定しきれず, 今後の調査が待たれる. もし, このまま本種の分布が拡大せず, かつ, 従来の記録地での発生が継続するのであれば, 古くから局地的に土着していたものと認めて良いのかもしれない.

○引用文献

- 岐阜聖徳学園大学・川上研究室, 2025. 新・理科教材データベース 進化する昆虫図鑑. <http://www.ha.shotoku.ac.jp/~kawa/KYO/SEIBUTSU/DOUBUTSU/06chou/ga/hamakigaka/shirotena/01.html> (参照 2025 年 1 月 24 日)
- Inoue, H., 1976. Descriptions and records of some Japanese Geometridae (V). *TINEA*, 10(2): 7-37.
- 岩阪佳和, 1999. 「梅ヶ瀬溪谷自然環境保全区域」北部地域の蛾類調査報告. 房総の昆虫, (22): 1-44.
- 岸田泰則, 2011. 日本産蛾類標準図鑑 I. 学研教育出版, 東京. 352pp.
- みんなで作る日本産蛾類図鑑; 新蛾像掲示板, 2025. 画像タイトル: 1729857202431.jpg-(118880 B). <http://www.jpmoth.org/fbbsw/index.html> (参照

2025 年 1 月 24 日)

那須義次・広渡俊哉・岸田泰則編集, 2013. 日本産蛾類標準図鑑 IV. 学研教育出版, 東京. 552pp.

pearl, 2025. 北河内昆虫記. シロテンアカマダラヒメハマキ. <https://osaka-insecta.sakura.ne.jp/moth/d-shirotenakamadarahimehamaki.html> (参照 2025 年 1 月 24 日)

斉藤修, 2021. 千葉県木更津市で採集したキモントガリバヒメハマキとシロテンアカマダラヒメハマキ. 誘蛾燈, (245): 130.

高橋弘樹, 2023. 相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録 (3) - 相生市三濃山麓の蛾 2020-2023. きべりはむし, 46(2): 1-16.

田中淑喬・沼田和洋・斎藤秀昭・鳥海清一, 2023. シロテンアカマダラヒメハマキを神奈川県平塚市で採集. 誘蛾燈, (243): 53.

Tsukuji, Takuro, 2025. シロテンアカマダラヒメハマキ. 虫ナビ. https://mushinavi.com/navi-insect/data-ga_himehamaki_sirotenakamadara.htm (参照 2025 年 1 月 24 日)

宇野宏樹・池田 大・阪上洸多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html#anchor_Tortricidae. (参照 2025 年 1 月 24 日)

山口福男, 2003. 諏訪山公園の蛾 (続報). きべりはむし, 31(1): 80.

(Hideo OGAI 兵庫県上郡町)

兵庫県相生市におけるケブカアメイロアリの記録

菅藤康平

ケブカアメイロアリ *Nylanderia amiga* (Florei, 1913) は体長約 2.5 - 3 mm ほどの褐色から黒褐色をしたアリであり, 東南アジア原産の放浪種である (寺山ら, 2014). 国内において, かつては小笠原諸島や南西諸島でのみ見られたが, 2010 年代以降西日本の各地及び東日本の大都市を中心に分布が確認されている (久末・辻, 2020).

筆者は, 2024 年 12 月 2 日に JR 相生駅で採集した個体を iNaturalist に投稿したところ, ケブカアメイロアリであるとご教授いただいた. 文献調査を行った結果, 相生市での記録は見当たらなかったことから, ここに報告する.

2. XII. 2024. 兵庫県相生市 JR 相生駅 筆者採集 (写真 1・2).



写真 1.



写真 2.

○引用文献

久末 遊・辻 雄介, 2020. ケブカアメイロアリ *Nylanderia amia* の四国における記録と近年の分布拡大について. Ari 蟻, (41): 18-36.

寺山 守・久保田 敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 278pp., 朝倉書店, 東京.

(Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校)